

# 姫路市SDGs未来都市計画の進捗状況について

## 1.2030年のあるべき姿

### (1)計画タイトル

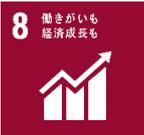
姫路市SDGs未来都市計画 ～世界をつなぐSDGs推進都市ひめじの夢～

### (2)2030年のあるべき姿

SDGs未来都市計画を推進することにより、世界遺産国宝姫路城に頼るだけでなく、国際人材を育成する先進都市を目指す。当市で郷土愛を育み、脱炭素型のライフスタイルを身につけたSDGsマインドを持つ若者が、姫路地域で活躍しつつ、世界と本国をつなぐ「架け橋」となっている姿を目指す。

【方向性】 産業～世界に誇れる価値を生む地域産業の確立～【経済】  
 市民活動～多様な主体が輝くまち～【社会】  
 環境～環境にやさしいまち～【環境】

### (3) 2030年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール

経 済	社 会	環 境
 8 働きがいも経済成長も	 9 産業と技術革新の基盤をつくろう	 4 質の高い教育をみんなに
 11 住み続けられるまちづくりを	 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	 12 つくる責任つかう責任
		 13 気候変動に具体的な対策を

### (4)2030年のあるべき姿の実現に向けた取組の達成状況

	指標	当初数値		最新実績値		目標値		達成度
		数値	年次	数値	年次	数値	年次	
経済	市内総生産(名目)	2兆4,031億円	2017年度	2兆4,737億円	2019年度	2兆8,837億円	2030年度	14.7%
社会	定住人口	53.6万人	2015年10月	53.0万人	2020年10月	51.8万人	2030年10月	33.3%
環境	市域の温室効果ガス排出量の削減	10,887kt-CO <sub>2</sub> (11,189kt-CO <sub>2</sub> ) ※	2013年度	10,532kt-CO <sub>2</sub>	2017年度	8,044kt-CO <sub>2</sub>	2030年度	20.9%

※当初数値の( )は、2014年度に測定方法が変更となり、測定し直した結果による数値

### (5)「2030年のあるべき姿の実現に向けた取組の達成状況」を踏まえた進捗状況や課題

- ・市内総生産については、当初数値比では回復基調であるものの、新型コロナウイルス感染症の影響による悪化も懸念される。
- ・デジタルトランスフォーメーションに代表されるような、外部環境の変化に素早く対応していく柔軟な産業構造の構築とそのネットワーク化に努める。
- ・「ものづくりのまち」としての認知度の向上に努め、市内企業の製品の高付加価値化や人材確保、企業誘致等に繋げる。
- ・定住人口については、5年間で約1%減少している。安定した市民生活を維持するためにも、今後も定住人口の増加につながる取組を進めていく。
- ・2022年度に地球温暖化対策実行計画(区域施策編)を改定し、2030年度の温室効果ガス排出量の削減目標値を国(46%)及び県(48%)と整合を図るべく見直す。

## 2.自治体SDGsに資する取組

### (1)自治体SDGsの推進に資する取組の達成状況

	取組例	指標	当初数値		最新実績値		目標値		達成度
経済	・将来のSDGsを牽引する産業人材の育成 ・多様な人材が活躍できる労働環境づくり ・地域経済の持続的発展を支える企業集積の推進と創業支援 ・新製品・新技術の開発や成長産業への参入と脱炭素化への投資促進 ・多様な担い手の育成 (IoT等、先端技術を活用した生産性の向上) ・良質な交流を生み出す観光の推進と体制構築 ・姫路の歴史的・文化的な魅力を伝えるシティプロモーションの展開	製造品出荷額等の全国シェア(3年平均)	0.74%	2016~2018年	0.72%	2019年	0.74%	2021~2023年	97.3%
		製造品出荷額等の県内シェア(3年平均)	14.97%	2016~2018年	14.35%	2019年	14.97%	2021~2023年	95.9%
		市内従業者数	246,712人 (244,970人) ※上段:速報値 下段:確報値	2016年	252,722人 (速報値)	2021年	248,500人	2023年	219.6%
		農業産出額(推計)	6,330百万円	2018年	5,770百万円	2020年	6,940百万円	2023年	△91.8%
社会	・国際感覚豊かな人材の育成 ・国際交流・協力活動のさらなる活性化 ・次世代の文化芸術を担う人材の育成 ・伝統文化継承のための取組の推進 (※)文化センター、キャスパホール、市民プラザ、音楽演劇練習場、バスナソスホール、平和資料館、水族館、姫路科学館、美術館、姫路文学館、書写の里・美術工芸館、埋蔵文化財センター	東京圏(東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県)・大阪府への転出超過数	994人	2019年	1,113人	2021年	694人	2023年	△39.7%
		国際交流イベントの参加者数	20,958人	2019年度	365人	2021年度	21,000人	2023年度	△49,031%
		文化拠点施設(※)の入館者数	1,338,401人	2017~2019年度平均	707,460人	2021年度	1,314,000人	2023年度	2,585.7%
環境	・水素エネルギーの利活用に向けた環境整備 ・強靱性(レジリエンス)の向上に資する環境活動の推進 ・地域循環共生圏の拡充 ・地球温暖化対策に寄与する脱炭素型のまちづくりの推進 ・3R(リデュース、リユース、リサイクル)の推進	1人1日当たりの家庭系ごみ排出量	508.7g	2019年度	510.1g	2021年度	469.3g	2023年度	△3.6%
		一般廃棄物の資源化率	15.0%	2019年度	15.9%	2021年度	17.1%	2023年度	42.9%
		一般廃棄物の最終処分量	15,573t	2019年度	14,877t	2021年度	13,246t	2023年度	29.9%
		市域の温室効果ガス排出量の削減	10,887kt-CO <sub>2</sub> (11,189kt-CO <sub>2</sub> )	2013年度	10,532kt-CO <sub>2</sub>	2017年度	10,051kt-CO <sub>2</sub>	2023年度	57.7%

### (2)「自治体SDGsの推進に資する取組の達成状況」を踏まえた進捗状況や課題

・新型コロナウイルス感染症の蔓延に伴い、各種イベントにおいて開催中止や規模縮小を余儀なくされ、利用者数や参加者数が大幅に減少となった。  
 ・アフターコロナを見据え、体験型・滞在型観光の充実やスポーツ・文化振興に努め、施設利用者数やイベント参加者数の向上を図る。  
 ・新型コロナウイルス感染症の状況やウクライナ侵攻の情勢を注視しながら、可能な範囲で国際交流を促進し、グローバル人材の育成を図る。  
 ・家庭系ごみ排出量については、新型コロナウイルス感染症の蔓延に伴い、家庭での時間が増加したことで、排出量も増加となった。  
 ・食品ロス削減もったいない運動の啓発、ボトルtoボトルリサイクル事業を推進し、ごみ排出量の削減及び資源化率の向上を図る。  
 ・環境省が実施する「脱炭素先行地域」(第1回)に本市が提案した「姫路城ゼロカーボンキャッスル構想」が選定された。  
 ・ゼロカーボンキャッスルを起点として、市域全体に脱炭素型のライフスタイルの定着や脱炭素型の企業経営への波及を図り、温室効果ガス排出量の削減を推進する。